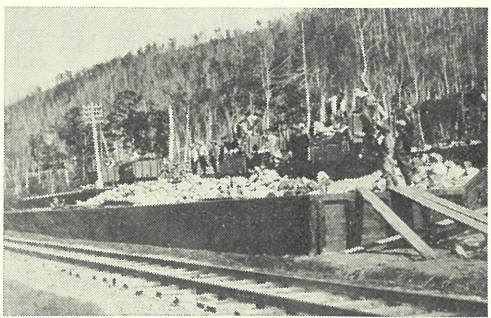


鉱泉調査と分析 金山住の駒井政吉が、温泉分析を申請したのは昭和五六年であった。この申請を受けた北海道立衛生研究所は、同所技術吏員北山正治を昭和五六年一月三日現地に派遣、調査が実施された。その「温泉分析書」によれば、源泉湧出地は金山（国有林金山事業区三二林班ハ小班）で、当日の現地気温は摂氏マイナス四度、泉温は七・九度で、湧出量は毎分一リットルであり、泉水は無色澄明、無味で、弱硫化水素臭があり、pH八・二（試験結果）であった。

なお、この「温泉分析書別表」(昭和五六年二月二日分析終了)によれば、次のとおりである(昭和五六年二月二四日、決定者・北海道衛生部長)。

- 泉質 単純硫酸冷鉱泉(弱アルカリ性低張性冷鉱泉)
- 療養泉 分類の泉質に基づく禁忌性、適応症等
- 浴用 禁忌症 すべての急性疾患 ことに熱性疾患、進行性結核、悪性腫瘍、重い心臓病、出血性疾患、高度の貧血、皮膚粘膜の過敏な患者、ことに先線過敏症の患者、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)
- 浴用 適応症 リウマチ性疾患、慢性中毒症(水銀、鉛、ヒ素等)、糖尿病、慢性湿疹及び苔せん、脂漏性疾患(にきびなど)、慢性膿皮症、凍瘡(しもやけ)、皮膚掻痒症、角化症、創傷、運動障害(特に神経麻痺)、女性性器慢性炎症、月経異常(特に無月経、過小月経)ある種の不孕症(卵管通過障害のないもの等)。
- 飲用 禁忌症 下痢患者又は下痢を起しやすい患者



石灰原石の積出駅となった幾寅停車場(明治期)



大塚徳松之碑(東鹿越)

篠崎の東鹿越における石灰石の発見は、明治三五年ごろといえる。

「石灰石(東鹿越)の発見者は篠崎福次郎であるが、これは幾寅寄の方のもので、彼は今日掘っている大沢の方の石灰石を知らなかった」(『村史』)という状況の中で、明治四一年(一九〇八)、篠崎は自己の経営する石灰石採掘の権利を菱中鉱業所に譲渡し、石灰川左岸の大沢地区も浅野信太郎に譲ったのである。

この大沢地区の石灰石鉱床は、大塚徳松が発見したものであった。篠崎から浅野への権移譲渡の裏には大塚がおり、浅野が結果的には、明治三九年(一九〇六)から四〇年(一九〇七)にかけて、王子製紙株式会社へ四〇〇〇〇円で譲渡することになるが、これに

飲用 適応症 リウマチ性疾患、痛風及び尿酸素質、運動障害(特に神経麻痺)、慢性気管支炎、慢性中毒症、糖尿病、慢性便秘
(浴用、飲用の一般的注意事項は省略)

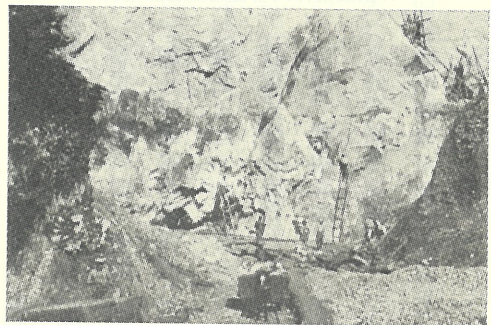
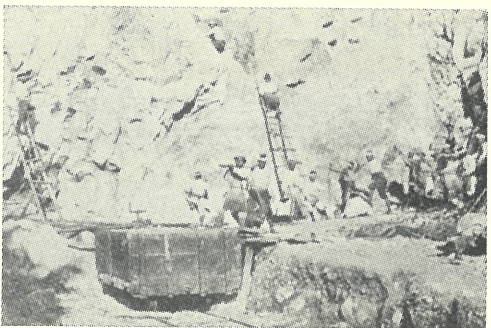
石灰石鉱床調査 本村地内の金山、鹿越、東鹿越及び幾寅付近の石灰石鉱床については、昭和二六年夏季に北海道開発庁の要囑を受けて、北海道地下資源調査所技師長尾捨一、同囑託小山内熙、同囑託酒匂純俊が詳細な現地調査を実施して『北海道地下資源調査資料』第四号(北海道開発庁)にまとめ、昭和二七年三月に発行した。

いま主な調査地を列挙すれば、次のとおりである(内容は本書に譲る)。

- 幾寅内藤農場付近石灰石
- 東鹿越北方伊勢団体山地石灰石
- 東鹿越東方の石灰石
- 日鉄東鹿越及び菱中興業石灰石
- 鹿越南方石灰石 白石石灰鉱山
- 鹿越北方山地石灰石 藤川石灰石
- パンチャーラ支流石灰石
- 二股沢の石灰石 金山北方踏切付近石灰石

石灰石の発見 東鹿越における石灰石鉱床を発見したのは、篠崎福次郎といわれる。

幾寅駅の開設は、明治三五年(一九〇二)二月九日であり、そ



石灰原石の採取作業(明治期)

も大塚は、大沢地区石灰石鉱山の発見者として、重要な地位を占めたのである。しかし、大塚は不幸にも失火により、焼死するという運命にあった(『前掲書』)。